日本心理学会 第85回大会

経済的困難を抱える単身中高年男性の援助要請はどのように抑制されるのか:将来展望意識に着目して

村山陽1),山崎幸子2),長谷部雅美3),高橋知也1),山口淳1),小林江里香1)

- 1) 東京都健康長寿医療センター研究所
- 2) 文京学院大学
- 3) 聖学院大学



問題

単身中高年者における生活保護受給者の割合の増加 (全受給世帯の約半数にあたる82万世帯)

(2019年7月時点:厚生労働省,2020)

単身中高年男性は女性に比べて社会的孤立に陥るリスクが高いことが示されており、その予防に向けたアプローチが求められている。

(内閣府,2012;小谷,2017)

にもかかわらず、

単身中高年男性は自らの生活習慣の問題を認識しにくいため生活問題の早期把握・支援が遅れる現状

(河野ほか,2009;Andrade et al,2014)



生活困窮に陥っている単身男性高齢者からの援助 を促すこと(援助要請)が課題

調査1. 面接調査の結果から

2019年8~10月に、都内の養護老人ホームAに措置入所した男性高齢者 (生活困窮経験者) 83名を対象に半構造化面接を実施 (Murayama et al,2021)

▶ 多くの対象者は、深刻な生活問題・社会的孤立に直面しながらも、 当時はその問題を認識していなかった(将来を考えていなかった)

生活困窮状態であったにも関わらず**将来を展望することがなく、** 援助要請にも消極的であった。

調査2. Web調査の結果から

2020年3月に、首都圏の50~79歳までの調査モニター1200人(その内、 単身者900人)にWeb調査を実施 (村山他,2021)

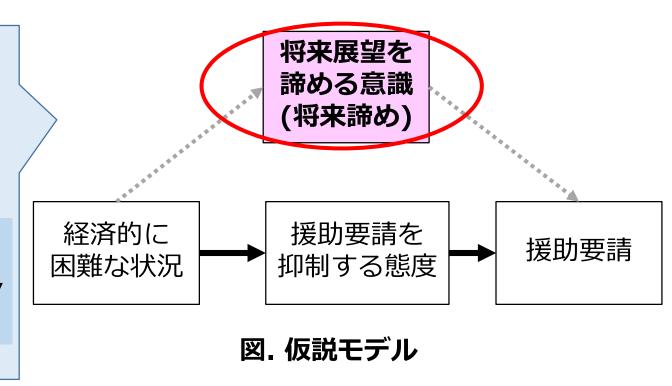
➢ 将来展望を抑制する意識を量的に測定するために将来展望意識 尺度 (下位次元:将来諦め・将来不安)を作成

単身中高年男性は高齢期に至るまで将来の生活への不安はそれほど高くないが、**将来に対する展望をあきらめる意識が強い**傾向が見られた (→ 思考の抑制)

目的

調査1と調査2の知見をもとに、仮説モデルを構築

<u> 単身中高年男性では経済的困難な状況が将来展望を諦める意識(将来諦め)</u>を高め, それにより<u>援助要請</u>が抑制される?



仮説モデルについて男女間での比較検討により、単身中高年男性の援助要請が抑制されるプロセスの傾向について検討する。

方法

調査の実施概要

- 対象者:東京都A区在住の50代~70代の 単身者4,000人(回収率1829票:46%)
- **抽出方法**:住民基本台帳上の単身者から無作為抽出
- 時期:2021年3月~4月
- 調査方法:郵送自記式アンケート調査
- **分析対象者**:実際は同居人がいる者、回答に不備があった者、主要項目に欠損値があった者を除く1310人(男性680人、女性630人)

調査項目

- 将来展望意識尺度(7項目4件法): 生活困窮経験 者への面接調査をもとに項目を作成し、予備調 査により尺度を開発(村山他,2021)
- 援助要請を抑制する態度尺度(10項目5件法): BHSS (Mansfield et al,2005)の逆翻訳および単身中高年者を対象にした予備調査により作成
- 援助要請意図(7項目5件法): General Help-Seeking Questionnaire: GHSQ (Wilson et al.2005)について単身中高年者を対象にした予備調査を実施して作成
- 経済状況 (2項目5件法): 「現在の経済状態」 と「子供の頃の経済状態」について尋ねた。

本研究は、東京都健康長寿医療センター研究所倫理委員会の承認を受けて実施した(30健イ事第1647号, 受付番号49)。

分析対象者の属性

男性は女性より 援助要請意図 が有意に低い	全体	単身男性 (n=660)			単身女性 (n=616)			主効果		交互
		50代 (n=255)	60代 (n=232)	70代 (n=173)	50代 (n=208)	60代 (n=164)	70代 (n=244)	性別	年代	作用
	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	F値	F値	F値
援助要請意図 (0-35)	10.90	10.65	9.50	8.23	13.09	12.43	11.49	69.41	11.79	0.52
	(6.26)	(6.30)	(6.79)	(5.84)	(5.50)	(5.97)	(5.79)			
現在の暮らし向き (1-5)	2.90	2.83	2.78	2.75	2.92	3.05	3.05	16.49	0.20	1.44
	(0.97)	(1.07)	(0.93)	(0.98)	(0.97)	(0.84)	(0.95)			
子どもの頃の 暮らし向き (1-5)	2.90	2.88	2.80	2.57	2.97	3.23	2.97	31.73	6.85	4.22
	(0.97)	(0.92)	(0.99)	(0.94)	(0.88)	(1.05)	(0.96)			

注) *p<.05 **p<.01

将来展望意識の検討

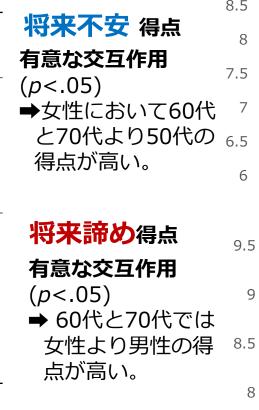
改訂版将来展望意識尺度の因子分析結果 (主因子法・プロマックス回転)

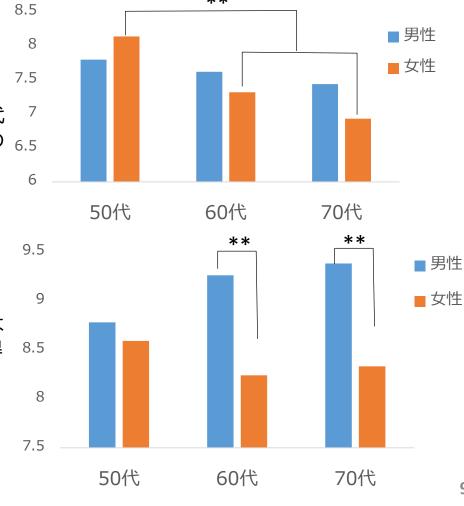
Factor and item	Factor loading	а
Factor1:将来不安		.73
6. 将来のことを考えると憂うつになる	.95	
8. 先のことを考えると暗くなる	.87	
4. 将来の生活を考えると不安になる	.77	
Factor2:将来諦め		.89
2. 自分の将来に関心がない	.80	
5. 自分の人生はどうなっても構わない	.65	
1. 自分の将来は成り行きにまかせている	.56	
7. 将来のことを考えるのは面倒だ	.51	

注) 因子分析除外項目:3.人生は何とかなるものだ

年齢×性別の2要因分散分析結果

**





援助要請を抑制する態度の検討

援助要請を抑制する態度尺度の因子分析結果 (主因子法・プロマックス回転)

Factor and item	Factor loading	а
Factor1:他者不信		.85
7. 相談しても理解してもらえない	.94	
10. 信頼して相談できる相手がいない	.73	
6. 他人に自分の気持ちを話したくない	.68	
5. 相談しても解決しない	.68	
Factor2:自己解決		.67
1. 自分の問題は自分で解決したい	.70	
4. 他人を頼りたくない	.70	
8. 相手に迷惑をかけたくない	.48	

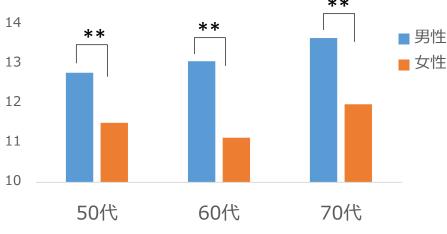
注) 因子分析除外項目: 2.他の人に自分の秘密を話したくない, 3.他人に相談するのは恥ずかしい,9.能力が低い人間だと思われたくない

年齢×性別の2要因分散分析結果

他者不信得点

「性別」に有意な主効果 ₁₃ (p<.01)

→ 女性より男性が高い¹²

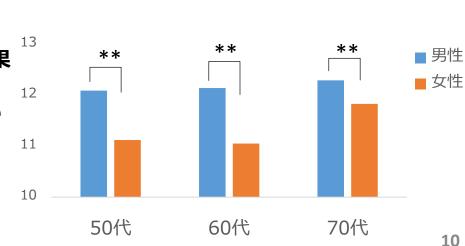


自己解決得点

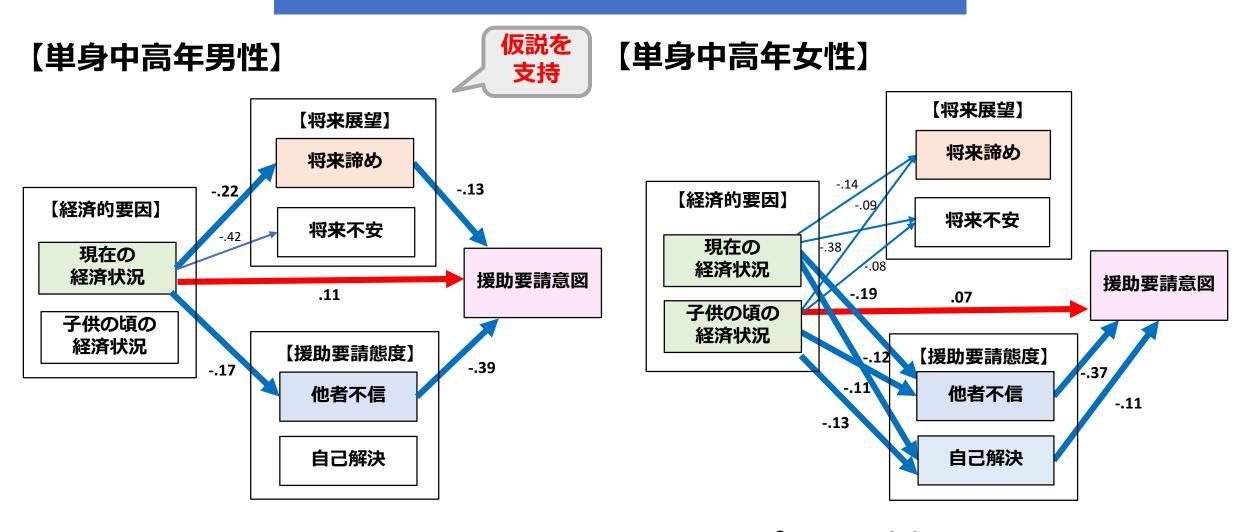
「性別」に有意な主効果

(*p*<.01)

→ 女性より男性が高い



男女別の多母集団同時分析



- 注1) 値は全て標準化推定値
- 注2) 年齢、誤差項、共分散は省略し5%水準で有意なパスのみ表示
- 注3) 青色の矢印はマイナスのパス、赤色の矢印はプラスのパス

 χ^2 =3.001(2), p=.223, GFI=.999,CFI=.999, AGFI=.979, RMSEA=.020, AIC=143.001

考 察1

【男女共通に見られた援助要請意図に至るパス】

◇ **男女ともに**経済状況(現在)が苦しいほど**他者への不信**が強まり、 それにより援助要請が抑制される



- 援助者に対する懸念や抵抗感
- → 他者への信頼感の低下(?)

経済的困難を抱える単身中高年者の援助要請を促すには、援助者に 対する**信頼関係の構築**を促す取組が重要

考 察 2

【男性に見られた援助要請意図に至るパス】

◇ 単身中高年男性では経済状況(現在)が苦しいほど将来への諦めが 強まり、それにより援助要請が抑制される



- ●伝統的な男性役割観(経済的自立)と経済的困難を抱えている現実との不一致
 - → 将来の不安から回避する方略 (思考抑制) (?) (村山他,2021)

経済的困難を抱える単身中高年男性の援助要請を促すには、他者との関りの中で将来への展望を促すサポートが重要

考 察 3

【女性に見られた援助要請意図に至るパス】

◇**単身中高年女性**では経済状況(現在・子供の頃)が苦しいほど**自己解決** の意識が強まり、それにより援助要請が抑制される



- 進学や就職などで女性に極めて不利な状況を経験 (男女雇用機会均等法以前の社会)
- ●非正規雇用労働者の割合の高さ、生涯賃金・年金の低さ (大塩,2017)
 - → 様々な困難に自ら対処せざるを得ない社会状況(?)

経済的困難を抱える単身中高女性の援助要請を促すには、**人を頼る**ところと自分で解決するところの整理を促す支援が重要

引用・参考文献

- Andrade LH, Alonso J, Mneimneh Z, et al. (2014). Barriers to mental health treatment; results from the WHO World Mental Health surveys. *Psychological Medicine*, **44**(6),1303-1317.
- ・河野あゆみ, 田髙悦子, 岡本双美子, ほか (2009). 大都市に住む一人暮らし男性高齢者のセルフケアを確立するための課題;高層住宅地域と近郊農村地域間の質的分析, 日本公衆衛生雑誌, **56**(9), 662-673.
- ・ 小谷みどり (2007). 孤立する男性独居高齢者の現状. 保健師ジャーナル, **73**, 378-383.
- ・厚生労働省 (2019). 被保護者調査(令和元年7月分概数) (https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/hihogosya/m2019/07.html, 2020.7.2).
- Mansfield, A. K., Addis, M. E., & Courtenay, W. (2005). Measurement of Men's Help Seeking: Development and Evaluation of the Barriers to Help Seeking Scale. Psychology of Men & Masculinity, **6**(2), 95–108.
- ・村山陽ほか(2021). 単身男性中高年者における将来展望を抑制する意識の検討, 老年社会科学, 43(1) 26-35.
- Murayama Y et al (2021). How Single Older Men Reach Poverty and its Relationship with Help-seeking Preferences, *Japanese Psychological Research*, **63**(4), 229-480.
- 内閣府:平成24年版男女共同参画白書 (2012). (http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h24/zentai/html/honpen/b1_s05_01.html, 2020.4.1).
- ・大塩まゆみ (2017). 女性の貧困,人間福祉学研究, **10**, 37-51.
- Wilson, C. J., Deane, F. P., & Ciarrochi, J. (2005). Can hopelessness and adolescents' beliefs and attitudes about seeking help account for help negation? *Journal of Clinical Psychology*, **61**, 1525-1539.

謝辞

本研究の実施にあたり、科学研究費補助金基盤研究B (JP19H01604, 研究代表者:村山陽, 課題名:貧困と社会的孤立状態にある単身男性高齢者からの援助要請を促すための支援方法の検討)の助成を受けました。